

## 琵琶湖を禁漁に

“今こそ、琵琶湖の固有魚類を守ろう”

酸味を含んだ独特の香り、オレンジ色の卵がびっしりとつまったフナずしは、湖国特有の食文化。このフナずしが食卓から消えようとしています。

約500万年前に誕生したといわれる琵琶湖は、世界的にも非常に長い歴史をもった古い湖の1つに数えられ、約60種類の魚類、40種の貝類が生息しています。

そのなかで、ホンモロコ、ニゴロブナ、ピワコオオナマズ、ピワマス、セタシジミなど魚類11種、貝類20種が琵琶湖の固有種とされています。

しかし、近年、内湖の干拓や湖岸堤の整備等によるヨシ群落の減少、水質汚濁などの生息環境の悪化、ブラックバス、ブルーギル等の外来魚の急増、近代漁具漁法による大量漁獲等により固有魚であるホンモロコ、ニゴロブナなどの水揚げが激減しています。

このような状況の中で、琵琶湖固有種を中心に魚貝類の自然生産力を回復させ、生態系を守るためには、生息環境の保全整備に努める一方、資源への削減圧力を減じ回復をはかるため、当分の間、外来魚と一年魚である鮎を除き“禁漁”とし、この間、ホンモロコ、ニゴロブナ等の積極的な放流、外来魚の徹底的な駆除を実施し、資源の回復を図

ることが、緊急の対策ではなかろうかと思うのであります。

禁漁の例としては、過去、秋田県においてハタハタの漁獲量が激減したとき、3年間にわたって禁漁とした例があります。その結果、今では、禁漁前年の漁獲量の8倍余りまで回復し、大きな効果をあげています。

琵琶湖のホンモロコやニゴロブナと同じように、ハタハタは秋田県民にとって特別な意味を持つ魚です。そのハタハタが秋田の海から消えかけたのです。

このような事態に直面した秋田県漁業者は、ハタハタの資源の復活を願い平成4年秋から3年間の全面的な禁漁を行うとともに、平成7年秋の解禁後も厳しい管理保護対策を実施しながら操業しています。

海と湖の違いがあり一律に論じられないとは思いますが、このままでは絶滅の危機に瀕するであろう固有魚貝類を守り、先祖から受け継いだ貴重な財産を、次代に引き継ぐため、琵琶湖においても、思い切って禁漁に踏み切ることについて、真剣に検討する時期にあるのではないのでしょうか。

皆様の貴重なご意見をお待ちしています。

## 「ヨシ腐葉土」好評発売中!

当財団では、刈り取ったヨシを有効に活用するため、ヨシの腐葉土を職員の手作りで製造し、販売しています。

ヨシ腐葉土は、琵琶湖のヨシを原料として作ったもので、通気性、透水性が特に優れているため、根張りが良くなり、根腐れの心配がありませんので家庭菜園作りにも好評です。

お問い合わせ、ご注文は当財団へお願いします。また、滋賀県種苗生産販売協同組合加盟の種苗店や(株)アヤハディオの各店でも販売していますので、一度おためし下さい。